

最新

お役立ち情報

総合版
(R04)

～鹿児島県農業で活用いただきたい新品种・新技術(令和3年度普及情報)～

どんどん 鹿児島



①原料用サツマイモ品種
「みちしずく(九州200号)」



②茶のロボット施肥機



③夏秋スプレーギク白色新品种
「M30SP-W-02」



④加温ハウス栽培「大将季」



⑤つり上げ仕立て法「パッションフルーツ」



金華勝(かねはなかつ)号



秀春幸(ひではるゆき)号



華姫博(はなひめく)号

⑥鹿児島黒牛を支える種雄牛

- ①原料用サツマイモ品種「みちしずく(九州200号)」の特性
- ②茶のロボット施肥機の開発と作業性能
- ③8～9月出し電照栽培に適する夏秋スプレーギク白色新品种「M30SP-W-02」の特性

- ④加温ハウス栽培「大将季」における節水管理移行期の目安となる果実品質
- ⑤パッションフルーツの収量を向上させるつり上げ仕立て法
- ⑥「鹿児島黒牛」を支える種雄牛

鹿児島県農業開発総合センター

農業開発総合センター

検索



サツマイモ基腐病の発生苗床から採取した苗の保菌状況と発病リスク

生産環境部

技術ポイント

- 基腐病の発生苗床から採取した苗は無病徴であっても、苗消毒時に薬液に浸らない上部の茎から基腐病菌が検出される
- 基腐病菌は傷が存在すると発病する可能性が高まるので、苗消毒は苗全身を薬液に浸す

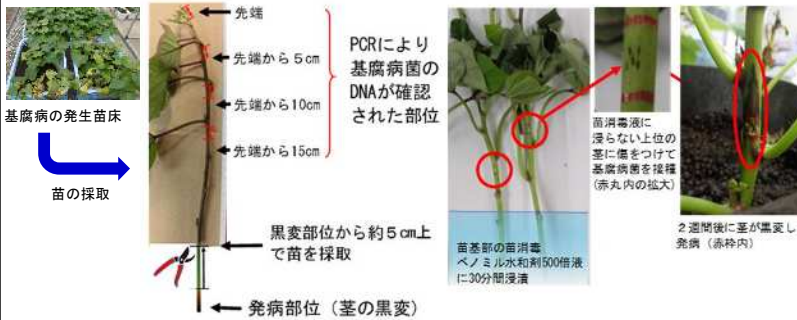


表 薬液に浸らない苗の上部に基腐病菌を接種した場合の傷の有無と発病状況

傷の有無	胞子懸濁液 (個/ml)	調査株数	発病株率	
			14日後	26日後
なし	1×10^4	20	0%	0%
	1×10^6	20	0%	0%
あり	1×10^4	20	20%	35%
	1×10^6	20	65%	100%
水 (比較)		20	0%	0%

苗消毒液へ苗全身を浸す

- ペノミル水和剤 500~1000倍液に30分間浸漬
- チウラム・ペノミル水和剤200倍液に30分間浸漬

対策

※令和4年5月25日に基腐病で農業登録

①基腐病菌は苗の上部にも存在する

②基腐病菌の胞子は傷口があれば発病する

適応対象

サツマイモ生産者

(公募:イノベーション創出強化研究推進事業(01020C))

原料用サツマイモ品種「みちしずく(九州200号)」の特性

大隅支場

技術ポイント

- 上いも収量は、「シロユタカ」より多い
- でん粉歩留まりは「シロユタカ」より高い
- サツマイモ基腐病抵抗性は、「シロユタカ」より強い
- しよ梗は「こないしん」より切り離し易い

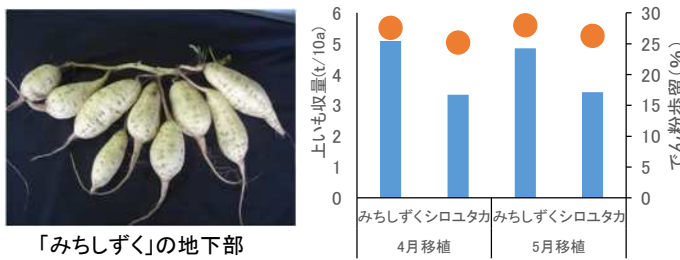


図 上いも収量とでん粉歩留まり

適応対象

県内サツマイモ生産者

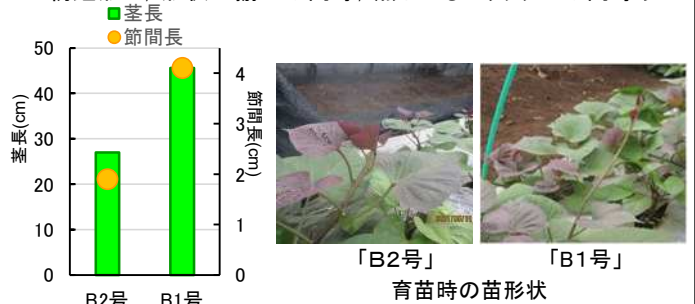
(公募:イノベーション創出強化研究推進事業)

安納紅の新優良系統「B2号」の地上部特性と収量性

熊本支場

技術ポイント

- 安納紅「B2号」は、現在供給している「B1号」と比較して
 - ・育苗時の茎長は短く、節数は多く、節間長は短い
 - ・上いも重や一個重は同等で、上いも個数や一株個数は多い
 - ・紡錘形で、形状の揃いは同等、蒸しもブリックスは同等以上



適応対象

種子島の安納いも生産者

有機栽培での輪作体系下における青果用サツマイモ栽培の土壌管理技術

生産環境部

技術ポイント

- 地力が高まると、上いも収量は、無施肥でも有機物施用の栽培と同等
- 無施肥栽培でコガネムシ類の被害低減、外観品質の低下抑制

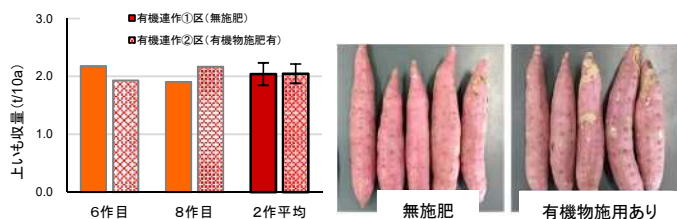


図 青果用サツマイモの上いも収量 収穫時のサツマイモ外観(6作目)

有機物の施用量(例)
キャベツやパレシヨ作:牛ふん堆肥2t、鶏ふん堆肥500kg、なたね油かす200kg/10a
青果用サツマイモ作:牛ふん堆肥1t、鶏ふん堆肥500kg/10a

適応対象

県内の有機栽培青果用サツマイモ生産者

サツマイモのコガネムシ類に対する植付時期による各種粒剤の効果

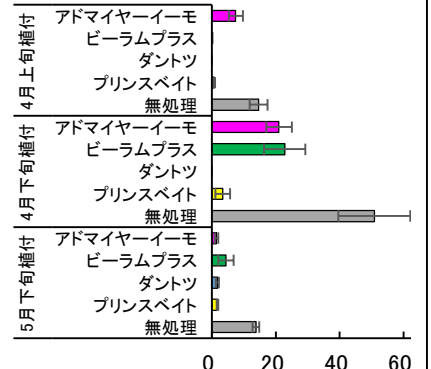
大隅支場

技術ポイント

- ダントツ粒剤とプリンスペイトは、植付時期にかかわらず安定した効果がある
- 粒剤の施薬は、可能な限り畝内に均一に処理する



コガネムシ幼虫と被害



適応対象

サツマイモ生産者

図 植付時期によるコガネムシ類の被害

サトウキビ「はるのおうぎ」の夏、秋植え用に供する種苗の3～4月植えでの増殖率

熊本支場

技術ポイント

- 種苗用に3月、4月に植付けると
- 「はるのおうぎ」は、「農林8号」に比べて苗の増殖率が高い
- 夏植え(8月植え)用苗の増殖率は、3月は20倍、4月は10倍
- 秋植え(10月植え)用苗の増殖率は、3月は35倍、4月は30倍

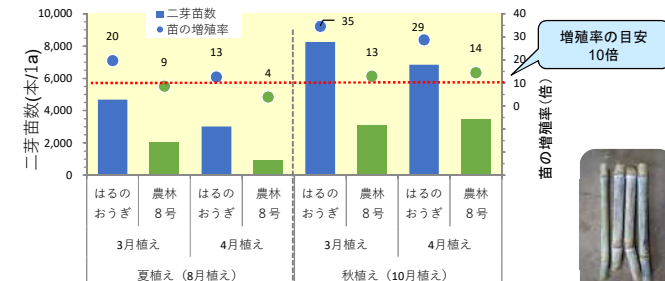


図 採苗1aから得られる二芽苗数及び苗の増殖率
注) 苗の増殖率 = 採苗1aから得られる二芽苗数 ÷ 原料1aに必要な二芽苗数 × 100

適応対象 熊本地域無霜地帯のサトウキビ生産者 (公募:民間)

サトウキビ品種「農林27号」の夏植え一株出し体系での窒素施用量

徳之島支場

技術ポイント

- 夏植え栽培では、窒素施用量22kg/10aで収量13t/10a確保
- 株出し栽培では、窒素施用量24kg/10aで収量10t/10a確保

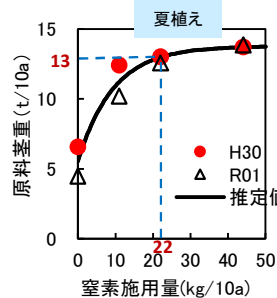


図 夏植えでの窒素施用量と原料茎重の関係

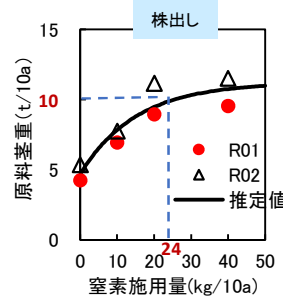


図 株出しでの窒素施用量と原料茎重の関係

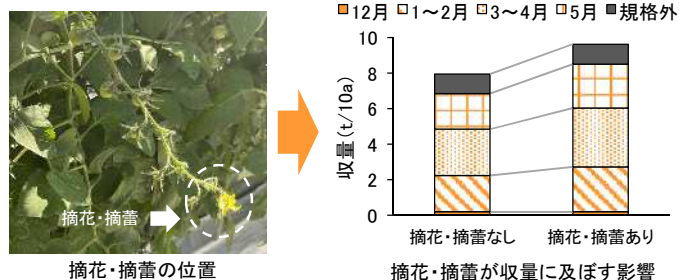
適応対象 奄美地域のサトウキビ生産者

摘花および摘蕾によるミニトマトの増収効果

園芸作物部

技術ポイント

- 1～2月に花房先端に着生する果実は、1果重が小さく、開花から収穫までの日数が長い
- 12～1月に開花の遅い花房先端部の花・蕾を除去すると1月以降の1果重が増加し、商品収量は約20%、粗収益は約90千円/10a増加



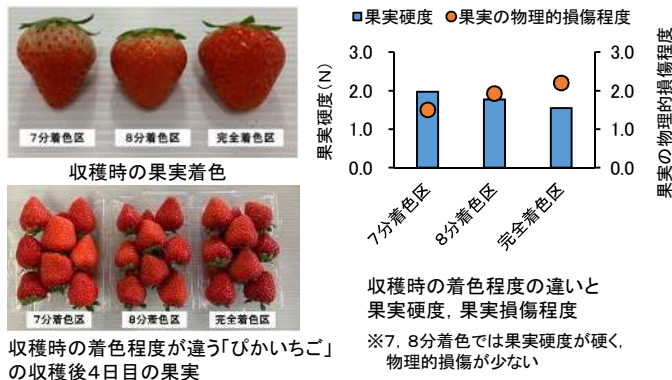
適応対象 ミニトマト生産者

「ぴかいちご」の日持ち性向上のための収穫技術

園芸作物部

技術ポイント

- 7～8分着色で収穫することにより、完全着色の果実と糖度は変わらず、日持ち性、輸送性が向上



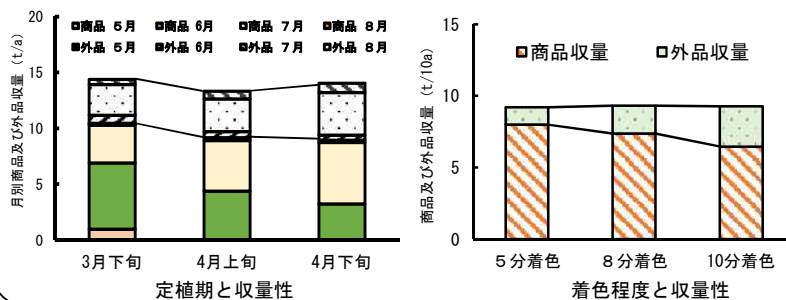
適応対象 「ぴかいちご」生産者及び生産志向者

有機栽培における大玉トマトの早熟作型で商品収量をも高める定植期及び収穫目安

園芸作物部

技術ポイント

- 3月下旬までに定植すると、5、6月の商品収量が多く、裂果などの外品が増加する前に、目標収量5t/10aを確保可能
- 収穫時の着色程度が低いほど裂果が減り、外品収量が減少して商品収量は増加
- 8分着色の果実品質は10分着色と同等で、5分着色では劣る



<着色程度と果実品質>

着色程度	糖度 (Brix%)	酸度 (wt%)	糖酸比
5分	4.9	1.2	4.1
8分	5.3	1.2	4.4
10分	5.5	1.3	4.2



10分着色前に収穫した果実は、追熟により10分着色と同等の果実色まで着色

適応対象

<収穫時及び追熟後の着色程度> 県内有機栽培トマト生産者

抑制カボチャの着果は訪花昆虫による自然受粉で可能

園芸作物部

技術ポイント

- 抑制カボチャの花粉媒介昆虫はミツバチ、トラマルハナバチ
- 抑制カボチャでは、自然受粉でも人工授粉と同等の収量・品質が得られ、人工授粉作業(25時間/10a)の省力化が可能



トラマルハナバチ



ミツバチ類

表 自然受粉と人工授粉の着果率

	自然受粉	人工授粉
農総センター	100%	100%
現地A(金峰町)	91%	—
現地B(吹上町)	83%	—
現地C(吹上町)	87%	—

表 自然受粉と人工授粉の収量・品質比

	収穫個数 (個/株)	1果重 (kg/個)	収量 (kg/10a)	乾物率 (%)	Brix (%)	果肉色 a*値
自然受粉	1.3	2.80	1,860	21.9	9.2	11.5
人工授粉	1.4	2.65	1,820	22.8	9.4	12.3

注)果肉色a*値:数値が高くなると、赤みが増す

適応対象

抑制カボチャ生産者

(公募:農林水産研究推進事業委託プロジェクト研究)

レタスの強風被害軽減には深さ2cmの深植えが有効

熊毛支場

技術ポイント

- 植え付け深さ2cmでは、強風による欠株を軽減でき、収穫株数が多くなり、収量が安定
- 植え付け深さ2cmでは、縦長球にはならず品質良好
- 植え付け深さ3cmでは、縦径/横径比が1.2を超え、縦長球となりやすく商品性が低下



植え付けイメージ

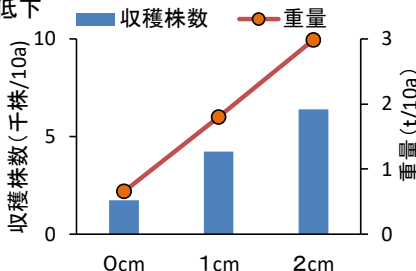


図 植え付け深さの違いによる収量

適応対象

県内の強風被害を受けやすいレタス栽培地帯

チップ加工用バレイショ有望系統「C0453-44」の特性

大隅支場

技術ポイント

- 有望系統「C0453-44」は、ジャガイモシストセンチュウ抵抗性を有し、収量は「トヨシロ」と同等でチップ加工時に黒変しにくく、加工適性も優れる
- 塊茎形状は“球～短卵形”、皮色は“淡ベージュ”、肉色は白

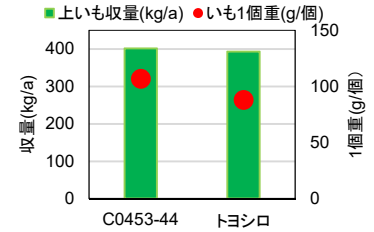
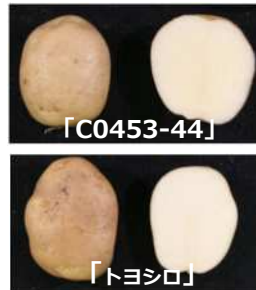


図 収量および1個重

適応対象

カルビーポテト株式会社のバレイショ契約農家
(公募:暖地向けチップ用バレイショの育成系統評価)

奄美地域における実エンドウの強風被害後の対策技術

徳之島支場

技術ポイント

- 播き直すことで被害株の継続利用よりも多収
- 播き直すことで11月上旬播種は慣行の9割、11月中旬は8割、11月下旬は7割の商品収量を確保

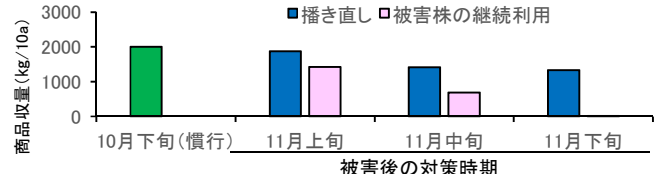


図 播き直しと被害株の継続利用が商品収量に及ぼす影響

表 播き直す時期が商品収量に及ぼす影響

播種期	商品収量 (kg/a)			慣行比 (%)			
	H30	R元	R2	H30	R元	R2	平均
10月下旬(慣行)	210	253	200	100	100	100	100
11月上旬	178	238	188	85	94	94	91
11月中旬	153	226	141	73	89	70	77
11月下旬	136	183	133	65	72	66	68

適応対象

奄美地域の実エンドウ生産者

クラストによるニンジンの発芽不良抑制には、マイクロスプリンクラー散水が有効

大隅支場

技術ポイント

- ニンジン播種直後のクラスト形成から発芽が完了するまでマイクロスプリンクラー散水を実施すると、発芽率は向上
- 散水期間の1日当たりの散水量は約7mm/日



クラスト:土壌表面が硬く締まった状態(発芽不良の原因)

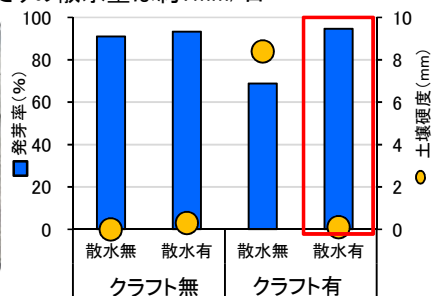


図 クラスト及び散水の有無が土壌硬度とニンジンの発芽に及ぼす影響

適応対象

県内畑かん整備地区のニンジン生産者

奄美地域の重粘土壌におけるエダマメ播種作業の省力化

徳之島支場

技術ポイント

- 播種機具を使用することで、播種に係る時間を手播きの6割削減でき、収量は播種方法による差はない
- 土壌が大きい圃場では、播種方法によらず発芽率が低いため、土壌の細かい圃場を選定する

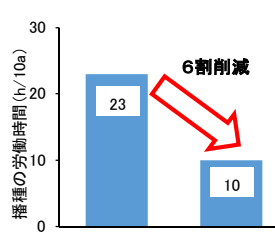


図 播種の労働時間

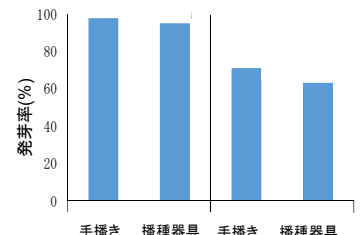


図 砕土率と播種方法の違いが発芽率に及ぼす影響

適応対象

奄美地域のエダマメ生産者
(公募:農林水産研究推進事業委託プロジェクト研究)

奄美地域におけるエダマメの 11~12月出し栽培技術

徳之島支場

技術ポイント

- 11~12月に安定した収量を得るための播種時期は9月下旬~10月中旬
- 品種は莢色の退色が遅い「サヤムスメ」、「恋姫」、「あづま錦」が有望

播種期	8月			9月			10月			11月			12月			商品収量 (kg/a)	評価
	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中		
8月下旬	○															4	×
9月上旬		○														27	×
9月中旬			○													35	×
9月下旬				○												53	○
10月上旬					○											51	○
10月中旬						○										48	○

注) ○: 播種 □: 収穫時期

図 播種時毎の収穫時期と商品収量

適応対象

奄美地域で畑かん水が利用可能な生産者

奄美地域におけるエダマメの 4~5月出し栽培技術

徳之島支場

技術ポイント

- 高単価期である4~5月に収穫するための播種時期は1月下旬~2月下旬頃
- 品種は莢色の退色が遅く収量の多い「サヤムスメ」が有望
- ポリエステル系複合長繊維不織布によるべたがけ、またはポリトンネルによる被覆栽培が多収で収益も多い

播種期	1月			2月			3月			4月			5月			6月			商品収量 (kg/a)			粗収益 (千円/a)
	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	R元	R2	平均	
1月下旬	○																		57	59	58	45
2月下旬		○																	68	79	74	52
3月下旬																			65	54	60	27

注1) ○: 播種 □: 収穫時期

注2) 粗収益は、商品収量に実際の時期別契約単価をかけて、試算

図 播種時毎の収穫時期と商品収量

適応対象

奄美地域で畑かん水が利用可能な生産者

奄美地域のサトイモ栽培における灌水及び施肥技術

徳之島支場

技術ポイント

- 植付け時の10mm灌水で、出芽までの日数が1か月程度短縮できる
- 出芽期以降は週に1回、10~20mmの灌水で増収
- 週1回20mm灌水の場合、慣行の基肥に肥効調節型窒素を加えるか、3月中~下旬に追肥をすることで増収

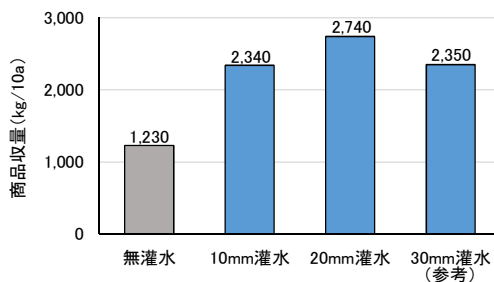


図 栽培期間中の灌水の効果

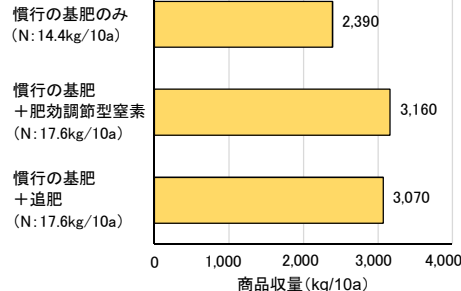
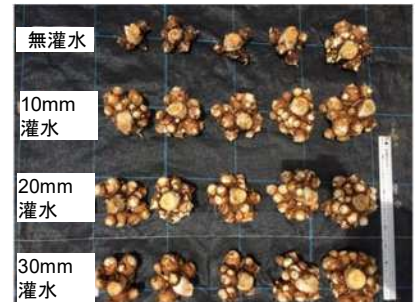


図 窒素肥料増肥の効果 (週1回20mm灌水の場合)



収穫時の塊茎

適応対象

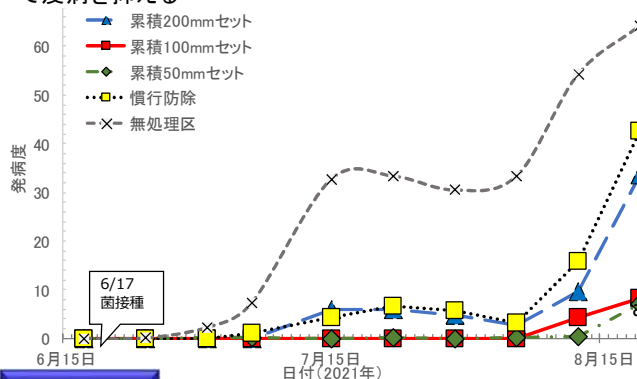
奄美地域のサトイモ生産者

降雨量と薬剤特性に考慮した 効果的なサトイモ疫病の防除体系

生産環境部

技術ポイント

- サトイモに対し、累積降雨量100mm毎に、ダイナモ顆粒水和剤を散布し、7日後にカンパネラ水和剤をセット散布することで疫病を抑える



適応対象

県内サトイモ産地

サトイモ湛水畝立て栽培における 入水量の目安

生産環境部

技術ポイント

- サトイモ湛水畝立て栽培では、水尻から流出がみられる程度の入水量を確保すれば、十分な収量が得られる
- 入水量が156t/日と61t/日(水尻から流出がみられる程度)の掛け流しの条件下では、収量に差はみられない(現地試験)



写真 サトイモ湛水畝立て栽培

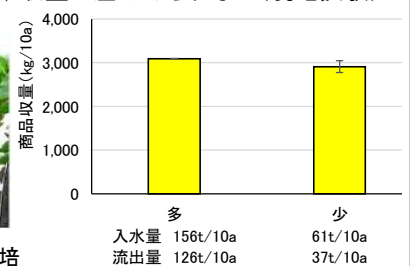


図 入水・流出量の違いによる収量

適応地域

サトイモ湛水畝立て栽培地域

(環境と調和した栽培技術確立事業)

パッションフルーツの収量を向上させるつり上げ仕立て法

果樹・花き部

技術ポイント

- つり上げ仕立て(垂直)の収量は、従来のつり下げ仕立ての約1.5倍
- 仰角75°に結果枝をつり上げると、S~M階級の果実割合が高い

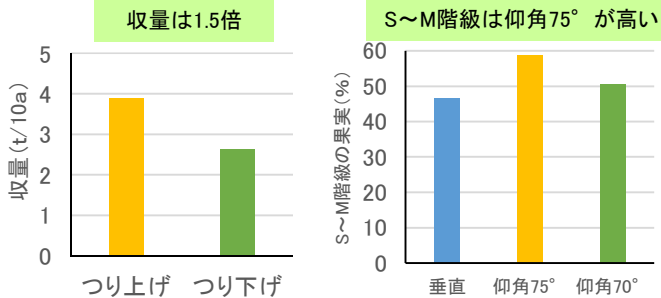
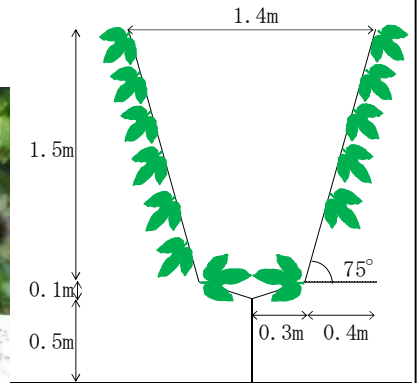


図 仕立てによる収量への影響 図 誘引角度による階級への影響



試験品種：ルビースター



仰角75° つり上げ仕立て

適応対象 奄美地域を除く、パッションフルーツ生産者

加温ハウス栽培「大将季」における節水管理移行期の目安となる果実品質

果樹・花き部

技術ポイント

- 8月中旬にクエン酸含量が1.8g/100ml以下で、節水管理を開始すると、収穫期(12月上旬)には、クエン酸含量1g/100ml以下になる。

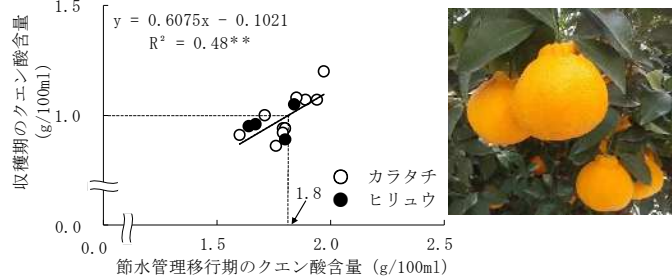


図 節水管理移行期と収穫期のクエン酸含量との関係

適応対象 加温ハウス栽培「大将季」の指導者

カンキツの有機栽培における幼木期の生育及び品質等の特性

果樹・花き部

技術ポイント

- 有機栽培における苗木植栽5年目の幼木期の生育・品質は、
- 樹冠容積は慣行栽培の40~90%で、樹冠拡大に遅れ
- 1樹当たりの収量は、慣行栽培より低い
- 果実品質(糖度、酸)は慣行栽培と同等

栽培方法別の収量及び果実品質

品目	試験区	1樹当たり収量 (kg/樹)	糖度 (°Brix)	クエン酸含量 (g/100ml)
レモン「璃の香」	有機	8	6.9	4.8
	慣行	35	6.9	4.9
ポンカン「KP-2」	有機	17	10.2	0.8
	慣行	32	10.5	0.9
ユズ「木頭系」	有機	33	6.8	4.1
	慣行	33	7.7	4.6
「かんきつ中間母本農6号」	有機	21	11.5	1.1
	慣行	32	12.2	1.1



有機栽培と慣行栽培の生育の違い (レモン「璃の香」)

適応対象 カンキツの有機栽培生産者及び有機栽培志向生産者

野菜の有機栽培と慣行栽培圃場の土壌生物性の特徴

園芸作物部

技術ポイント

- 有機栽培圃場は慣行栽培圃場と比べ土壌バイオマス(土壌中に生息する動物及び微生物の総量)は多くなるが、糸状菌や細菌の種数は変わらない

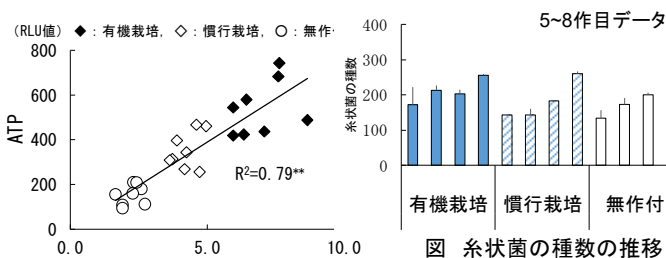


図 糸状菌の種数の推移

図 土壌からの抽出DNA量 (µg/g soil)
注)ATPは生きている細胞から生産され、値が多いほど土壌バイオマスは多い

適応対象 県内有機栽培生産者、技術員

露地野菜における糖含有珪藻土の条施用による畝内土壌還元法

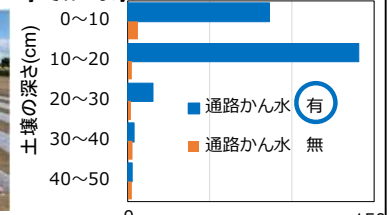
生産環境部

技術ポイント

- 畝内かん水に加えて通路かん水することで土壌中の還元状態を高めることができる
- 糖含有珪藻土1.5kg/m²を条施用し耕耘後、平畝を立てる
- かん水チューブ敷設後マルチし、畝内を十分かん水(60ℓ/m²)
- 通路部分にもスプリンクラー等でかん水



ソラマメ植付け前の土壌還元消毒 (写真中央~左:現地試験畝内かん水に加え、通路にも追加かん水)



二価鉄生成量(mg/100g乾土)
図 黒ボク土における通路かん水の有無と二価鉄含量 (二価鉄生成量が多いと還元能が高い) (公募:民間)

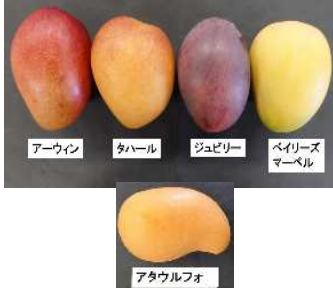
適応地域 県内黒ボク土、畑かん地帯

加温ハウス栽培におけるマンゴー品種の特性

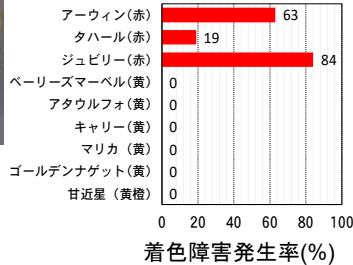
果樹・花き部

技術ポイント

- 肥大期の高湿度条件で赤色系品種(「アーウィン」等)では着色障害が発生するが、黄色系統では発生しない
- 試験した品種のうち6品種で、糖度は「アーウィン」より高く、特に「アタウルフォ」では21度を超える



黄色系は着色障害が発生しない



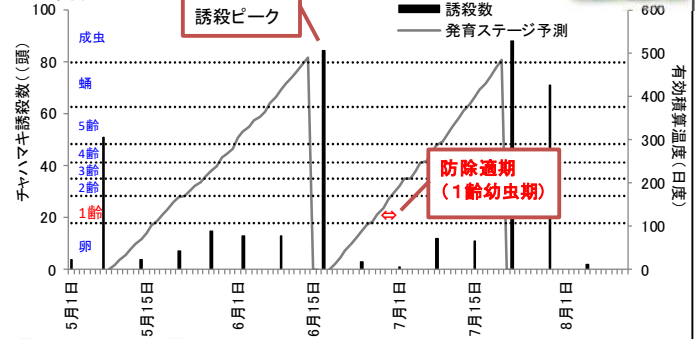
適応対象 品種の多様化を指向する生産者・指導者

アボカドにおけるフェロモントラップ誘殺データを活用したチャハマキの効率的防除

生産環境部

技術ポイント

- アボカドを加害するチャハマキの生育ステージは、誘殺データと平均気温から予測可能
- 予測した1齢幼虫期に薬剤散布することで効果的な防除が可能



適応対象 県内アボカド生産者

8~9月出し電照栽培に適する夏秋スプレーギク白色新品種「M30SP-W-02」の特性

果樹・花き部

技術ポイント

- 桃系「サザンサマーピンク」の変異品種で、花色は白色(純白)、黄緑心のシングル咲き
- 花色以外の特性は「サザンサマーピンク」と同様
- 消灯後47~53日程度で開花する



M30SP-W-02の草姿



右は元品種の「サザンサマーピンク」

適応対象 県内施設スプレーギク生産者

茶のロボット施肥機の開発と作業性能

茶業部

技術ポイント

- 超音波センサ等により施肥作業の自動走行が可能
- 装着するアタッチメントは普通肥料用と堆肥用の2種類
- 目標施肥量に対する散布誤差は、従来機(有人)に比べて半分以下に減少



ロボット施肥機のアタッチメント (左:普通肥料用, 右:堆肥用)

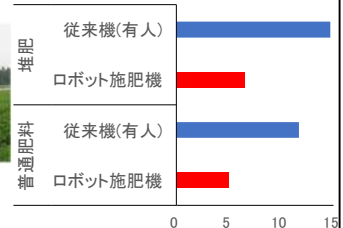


図 目標施肥量に対する散布誤差(%)

適応対象 ロボット茶園管理機導入可能茶園

生葉低温保管システムを利用したてん茶の高品質化とランニングコスト

茶業部

技術ポイント

- 年間を通して葉温を16℃前後に管理可能
- 生葉低温保管により、従来よりも長い期間保管(20~46時間)が可能になりてん茶品質向上
- ランニングコストは、生葉1kgあたり電気使用料金:0.3~1.0円



生葉室を断熱材で覆い冷風循環

表 保管時間別てん茶官能審査評点及び測色値

保管時間	官能審査		色相角度 (h*)
	評点	概評	
短時間 (0-10)	93.1		119.8
長時間 (20-46)	99.1	うま味、覆い香	120.9

(注)官能審査は5審査項目20点満点の減点法

適応対象 てん茶ラインを有する茶工場

(公募:農林水産研究推進事業委託プロジェクト研究)

チャノホソガのフェロモントラップと有効積算温度を活用した発生予測法

生産環境部

技術ポイント

- チャノホソガの有効積算温度から求めた第一、二世世代の羽化予測日は、発生時期予測や防除時期の目安として活用可能

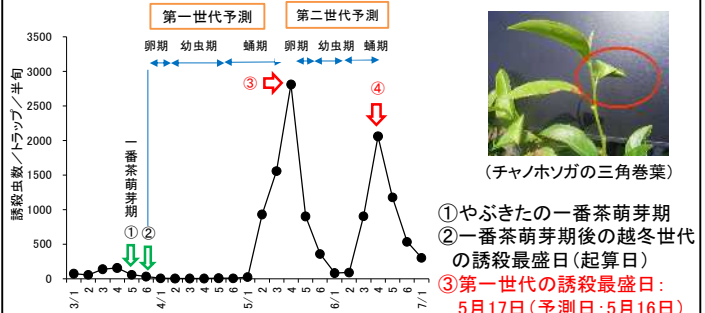


図 チャノホソガ成虫のフェロモントラップ誘殺虫数(南九州市知覧町:R3年半年値)

第一、二世世代は発生予測と概ね合致

適応対象 県内茶生産者および茶指導者

(公募:農林水産研究推進事業委託プロジェクト研究)

鹿児島黒牛を支える種雄牛 「金華勝(かねはなかつ)」号

肉用牛改良研究所

特徴

- 第11回全共第1区(若雄)優等賞1席
- 脂肪交雑に優れ、枝張り、バラの厚さ及びモモ抜けの良好な種雄牛
- 「金吉幸」号の後継種雄牛で、産子の発育も良好

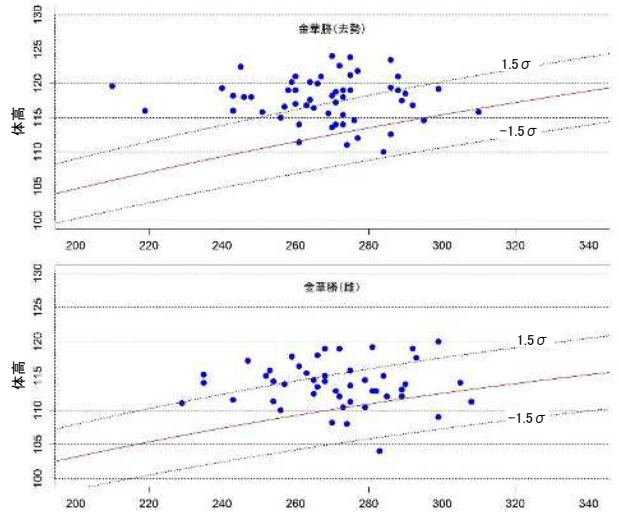
【血統】金吉幸-華春福-勝忠平
【生年月日】平成27年11月3日

間接後代検定の成績(6頭)



- ・枝肉重量 506.5kg
- ・ロース芯 69cm²
- ・BMS No.9.3

交配対象(雌牛の父) 喜亀忠, 百合茂, 安福久, 美国桜など



図「金華勝」号産子の発育(R1年9月~R4年3月調査)

鹿児島黒牛を支える種雄牛 「秀春幸(ひではるゆき)」号

肉用牛改良研究所

特徴

- 脂肪交雑に優れ、ロース芯、枝張り、バラの厚さも良好
- 「秀幸福」号の後継種雄牛
- 肉用牛改良研究所の供胚牛から造成

【血統】秀幸福-華春福-金幸
【生年月日】平成28年2月4日

間接後代検定の成績(7頭)



- ・枝肉重量 512.3kg
- ・ロース芯 81cm²
- ・BMS No.8.1

交配対象(雌牛の父) 喜亀忠, 勝忠平, 安福久, 美国桜など

鹿児島黒牛を支える種雄牛 「華姫博(はなひめはく)」号

肉用牛改良研究所

特徴

- 脂肪交雑に優れ、枝張り、バラの厚さ及びモモ抜けも良好
- 「華春福」号の後継種雄牛
- 「ひらかわ」系統

【血統】華春福-百合茂-金幸
【生年月日】平成28年4月10日

間接後代検定の成績(8頭)



- ・枝肉重量 515.4kg
- ・ロース芯 68cm²
- ・BMS No.9.1

交配対象(雌牛の父) 喜亀忠, 勝忠平, 安福久, 美国桜など

春播き栽培に適した飼料用トウモロコシ「TX1334」

畜産試験場

技術ポイント

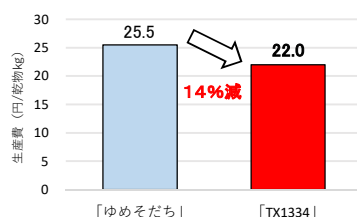


- 県奨励品種「ゆめそだち」との比較
 - ・登熟は10日程度早い
 - ・乾物収量は117%と多収
 - ・耐倒伏性に優れる
 - ・耐病性は同等

表「TX1334」の栽培特性(H29~R2春播き, 試験地: 県畜産試験場)

品種名	発芽 良否	初期 生育	稈長 (cm)	着雌 穂高 (cm)	倒伏 (%)	折損 (%)	病害				乾物収量			乾物収量の 対県奨励との 比較 (%)
							苗立 枯病 (%)	ごま葉 枯病 (%)	すず 紋病 (%)	南方 さび病 (%)	乾茎 葉重 (kg/a)	乾雌 穂重 (kg/a)	乾物 総重 (kg/a)	
TX1334(RM115)	1~9極良	1~9極良	200	81	0.7	0.8	6.9	1.3	1.1	2.1	83.1	96.1	179.2*	117
ゆめそだち(RM125, 県奨励)	8.8	7.5	196	86	21.8	4.2	7.6	1.1	1.5	4.8	69.9	82.6	152.6	100

注) 乾物総重について5%水準で有意差あり(t-test)



注1) 農林水産省畜産物生産費統計(H29,30年度)をもとに算出
注2) 調製前(収穫時)までの生産費である

図「TX1334」の生産費

- 生産費(円/乾物kg)は「ゆめそだち」と比較して14%減であることから、安定かつ安価な自給飼料を確保

- ▲栽培方法は、県飼料作物栽培基準に準じる
- ▲初期生育期には、雑草と競合するため、防除基準に準じて雑草防除を行う

適応対象

県内の乳用牛農家, 肉用牛農家

(公募: 飼料作物等高能力新品種選定調査事業)